

# 雅楽だより

## 【目次】

- 国際ダブルリード協会より檄文 1
- 『體源鈔』とその時代 (6) 遠藤 徹 10
- 名器への幻想 東儀俊美 5
- 情報欄 10
- 調子について 安齋省吾 8
- 舞楽面陵王の無料貸し出し 日本仮面文化研究所 12
- 雅楽いろいろ Q & A ⑥ 芝 祐晴 9

第 34 号  
発行

2013 (平成 25) 年 7 月  
雅楽協議会

## 日本のダブルリード奏者の皆さんへ

2013年3月7日

IDRS (国際ダブルリード協会) 会長  
Martin Schuring

箏篋 (Hichiriki) のリードの良材の産地が失われる可能性があるという悲劇的なニュースに接して衝撃を受けている。1200年以上も前から、最高品質の箏篋のリード材は、京都から大阪へ流れる淀川の河川敷で収穫されてきた。しかし、高速道路の建設工事により、この絶対不可欠の資源が永久に失われようとしていると聞く。

雅楽演奏に欠かせない重要楽器である箏篋のリード資源が破壊される。その衝撃の深刻さは私たちに多く理解できる。葦原の破壊は雅楽の演奏と日本の音楽文化に決定的なマイナス効果をもたらすであろう。西洋音楽のあらゆるリード管楽器は (古代のバグパイプをも含めて) Cane (ケーン=葦=arundo donax) で作ったリードを使う。最上のリード・ケーンは、フランス・ヴァール地方の数か所でのみ育つ。世界中のリード楽器プレイヤーは皆が皆ヴァールに自生するケーンで作ったリードを使っていると言っても過言ではない。もし、このヴァール地域の資源が破壊され全滅すれば、西洋音楽文化に壊滅的影響を与えることだろう。私たちが淀川河川敷に育つ葦の危機を他人事とは思えないゆえんである。

雅楽は1200年以上の歴史と伝統を持つ芸術形式であり、日本の歴史と伝統そして文化の象徴でもある。そして完璧に保存されてきた雅楽とその熟練の演奏技能は日本独自のものであり何としてでも保全されなければならない。雅楽は1000年以上生き続けて来た保護すべき宝であり遺産である。高速道路工事で雅楽に必要な不可欠の産地を破壊するのは聖像を破壊するに等しい悲劇である。

IDRSは、ダブルリード奏者、楽器メーカー、熱狂的ファンで構成される世界的規模の組織で、会員数は世界50ヶ国に及ぶ。私たちは日本の宮内庁、民族音楽専門家、雅楽の愛好家、ダブルリードの同志たちと連帯し、淀川河畔～箏篋の魂が宿っている～の保護と保存の要求を断固として支持する。

(翻訳: 小関馨子)

## 世界中から 鶺鴒のヨシを守ろうの声

### 国際ダブルリード協会より檄文

新名神高速道路着工により、箏篋のリードの生育地である鶺鴒ヨシ原 (大阪府高槻市の淀川河川敷) のヨシの壊滅的危機を迎え、ヨシ原保存の署名活動などが行われている中、国際ダブルリード協会 (IDRS) より「淀川河畔、箏篋の魂が宿っている」の保護と保存の要求を断固として支持する」との力強い連帯と応援のメッセージが発せられました。

左記の檄文を出された国際ダブルリード協会は、世界50カ国に約4000人の会員を有するオーボエやファゴットなどダブルリードの奏者の集まりです。

この檄文の連名者の一人でもあり国際ダブルリード協会の中で唯一の日本人の役員・第二副会長であり、日本ファゴット (バスーン) 協会会長でもある菅原眸氏のご自宅でお話を伺いました。

「檄文の中に書いてあるとおりの気持ちです。音楽を演奏する同じ仲間として黙ってはいられない。特に雅楽は日本独自のもので、世界に誇れる歴史と演奏技能と芸術性を有しています。高速道路で破壊されたら取り返すことはできなくなります。歴史的な悲劇です。全面的に応援します」と話され、鶺鴒ヨシ原保存の呼びかけ人も快く引き受けてくださいました。

この国際ダブルリード協会の檄文が掲載されたのは管楽器専門月刊誌『パイパーズ』5月号381号 (「箏篋の音が消えてしまう」) お話 中村仁美の7ページにわたる特集記事) 中である。

檄文の掲載の経緯について『パイパーズ』編集主幹の杉原道夫氏は「この鶺鴒ヨシ原の問題については新聞紙上やNHKテレビなどでも取上げられていたもので前々から心を痛めていました。以前本誌の「和楽器シリーズ」で箏篋奏者として登場していた中村仁美さんに連絡をとり、詳しい話を聞いた中



国際ダブルリード協会  
第2副会長 菅原眸氏



**Second Vice President**

Hitomi Sugawara, President JBS  
2-12-4 Higashi-machi Nishi Tokyo-shi  
Tokyo 202-0012 JAPAN  
Bus: 0424 21 4584

**Secretary**

Eric Stomberg, Associate Professor of  
Bassoon  
School of Music University of Kansas  
1530 Naismith Dr., Room 460 Lawrence,  
KS 66045  
Bus: (785) 864-9717 Fax: (785) 864-5866

**Past President**

Nancy Ambrose King, Professor of Oboe  
University of Michigan  
3019 School of Music University of  
Michigan Ann Arbor, MI 48109  
Bus: (734) 764-2522 Fax: (603) 843-

**Oboe Editor**

Daniel J. Stolper  
7 Hermosillo Lane Palm Desert CA  
92260-1905  
Bus: (760) 837-9797

**Idrs On-Line Publications Editor**

Yoshiyuki Ishikawa, Professor of  
Bassoon  
University of Colorado Boulder, CO  
80309-0301  
Bus: (303) 492-7297 FAX: (303) 581-  
9307

**Bassoon editor**

Ryan D. Romine, Assistant Professor of  
Bassoon

Shenandoah University 1460 University  
Drive Winchester, VA 22601  
Bus: (540) 327-4252

**Executive Secretary Treasurer Exhibit  
Coordinator**

Norma R. Hooks  
2423 Lawndale Road Finksburg, MD  
21048-1401  
Bus: (410) 871-0658 Fax: (410) 871-0659

**Conference Coordinator**

Marc Fink, Professor Emeritus of Oboe  
School of Music University of  
Wisconsin-Madison  
455 North Park Street Madison, WI  
53706-1483  
Bus: (608) 263-1900 Fax: (608) 262-8876

**At Large Members**

Kristen Sonneborn, Principal Bassoon  
Naples Philharmonic, Florida  
1100 Rordon Ave Naples, FL 34103  
Home: (239) 261-3042

David Weiss, Principal Oboe  
Los Angeles Philharmonic (retired)  
6226 Corning Ave Los Angeles, CA  
90056  
Bus: (310) 337-0962 E-mail:  
weiss440@ca.rr.com

**At Large-Business Liaison**

Trevor Cramer, President  
TrevCo Music Publishing  
PO Box 1, Tellevast, FL 34270-0001  
Bus: (941) 907-6944

きまして、署名活動なども行っていることを  
知りました。何とかしなくてはいけない、と  
の思いから、ダブルリードの演奏家の世界的

な組織である国際ダブルリード協会に鶴殿の  
状態をお話し、コメントをお願いしました。  
届いたのが掲載しました概文です。

中村仁美さんから鶴殿ヨシ原を守る呼びか  
け人のお願いをされまして、このような願  
いは立場上全てお断りさせていただいてきま

したが、今回は黙っていられませんでしたが  
で呼びかけ人を引き受けました」と熱い応援  
の言葉をいただきました。

この概文は現在の鶴殿のヨシの於かれてい  
る状況がとても良く分かるように書かれてい  
ます。

「ヴァール地域の資源が破壊され全滅すれ  
ば、西洋音楽文化に壊滅的影響を与えること  
だろう。私たちが淀川河川敷に育つ葦の危機  
を他人事とは思えないゆえんである。

(中略) 高速道路工事で雅楽に必要不可欠  
の産地を破壊するのは聖像を破壊するに等し  
い悲劇である。(中略) 私たちは日本の宮内  
庁、民族音楽専門家、雅楽の愛好家、ダブル  
リードの同志たちと連帯し、淀川河畔々筆築  
の魂が宿っているの保護と保存の要求を断  
固として支持する」と結ばれています。

私たちにとってはとても励みになる概文  
です。

**海外の雅楽奏者などよりも**

**メッセージが届く**

ハワイ大学で雅楽を正課として50年以上に  
渡り教え、またケルン大学音楽部でも雅楽を  
教えた社本正登司氏より次のメッセージをい  
ただきました。



社本正登司氏



7 March 2013

To Whom It May Concern:

IDRS has learned the tragic news about the potential loss of reed-making materials for *Hichiriki*. For more than 1,200 years, the best reed making materials for this instrument have been harvested from the riverbanks of the Yodogawa River between Osaka and Kyoto. A planned highway will forever destroy this essential resource.

We understand the impact and the significance of the destruction of a vital resource for *Hichiriki*, a critical instrument for the performance of *Gagaku*. The destruction will have a serious negative consequence on the performance of *Gagaku* and the musical culture of Japan. In western culture, all reed wind instruments (including the ancient bagpipe) use reeds made from cane (*arundo donax*). The best reed cane grows only in a few areas of the *Var* region of France, and virtually all professional reed players in the world use reeds made from *Var*. If the resource for this reed cane were to be destroyed, its obliteration would have a catastrophic impact on western music making and culture.

*Gagaku* is an art form and a cultural icon with more than 1,300 years of history and tradition. *Gagaku*, and its impeccably preserved performance practice, are uniquely Japanese and must be preserved. *Gagaku* has existed for more than a millennium, and it is a treasure and a heritage that must be protected. The destruction of the essential resource for *Hichiriki* for the sake of a highway is iconoclastic and a tragedy.

IDRS is the worldwide organization of double reed players, instrument manufacturers, and enthusiasts with members in more than 50 countries. We stand together with the Imperial Household Agency of Japan, ethnomusicologists, *Gagaku*-lovers and our fellow double-reed artists, and emphatically support the call for the protection and preservation of the riverbanks of the Yodogawa River, where the soul of *Hichiriki* resides.

Sincerely,

**The IDRS Executive Board**

**President**

Martin Schuring, Professor of Oboe  
School of Music Arizona State  
University-0405 Tempe, AZ 85287-0405  
Bus: (480) 965-3439 Fax: (480) 965-2659

**First Vice President**

Keith Sweger, Professor of Bassoon  
Ball State University Muncie, IN 47304  
Bus: (765) 285-5511 Fax: (765) 285-5401

(広辞苑より)【檄】①昔の中国の徴召または説論の文書。木札に書いたという。めしづみ。

②敵の罪惡などを挙げ、自分の信義を述べて、衆人に告げる文書。檄文。檄書。

ハワイ雅楽研究会

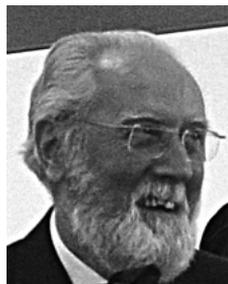
社本正登司しゅもと まさとし

「ハワイ大学音楽学部雅楽コースには毎年10名以上の学生が、雅楽を学び単位を取っています。東洋音楽を学ぶ学生は、まず日本の雅楽を学ぶことからはじめます。日本にいると気づかないかもしれないが、雅楽は世界的な宝物であることを忘れないで欲しい。日本人は、往々にして世界から見たら大変な日本の宝物を見過ごしがちで無関心である。

もし鶴殿のヨシが絶滅するとなら世界中の損失である。雅楽は世界の宝であることを日本で暮らす人たちはもつと知って欲しいし、考えてもらいたい」

ドイツ ケルン大学より

ハワイの社本正登司氏と共にヨーロッパで唯一の雅楽の演奏団体であるケルン雅楽アン



ロベルト・ギンター氏

サンプルを誕生させたケルン大学名誉教授ロベルト・ギンター博士より次のメッセージが届きました。

ケルン大学音楽部名誉教授

ロベルト・ギンター

「筆楽の舌の原料になる鶴殿ヨシ原に高速道路が建設されると聞き、大きな関心を持っています。鶴殿ヨシ原は国際的にも貴重な雅楽という文化遺産を下支えする重要な湿原、

どうか後世にも残して頂きたいと強く望んでいます」

**韓国 ソウル大学より**

前韓国国楽学会会長で、ソウル大学で教鞭もとられ、また日本の雅楽にも造詣が深く、昨年10月の紀尾井ホールでの「朝鮮通信使」の公演では徳丸吉彦氏と対談された黄俊淵教授よりメッセージが届きました。



黄 俊淵氏

**前韓国国楽学会会長  
ソウル大学校 音楽大学国楽科教授**

黄 俊淵

「箏築のリードの生育地である鶴殿ヨシ原に高速道路が建設されるという話を聞き、とても驚いています。現在の韓国の雅楽は、中国の宋の時代に当時の高麗へ伝えられたもので、現在も文廟などで演奏されています。韓国の雅楽と日本の雅楽は中国からの伝来の経路は異なっていますが、共に大切な文化です。絶やすことなく後世の人たちに伝えていきたいと思います」

**アメリカ ニューヨーク**

**コロンビア大学より**

2006年9月にニューヨークのコロンビア大学には雅楽コースが新設され、毎年大学内で演奏会を開催すると共に、数名の生徒さんが来日し雅楽を学んでいます。（「雅楽だよ

り」7、9、11、12、31号参照）  
そのコロンビア大学のバーバラ・ルーシュ名教授よりメッセージが届きました。



バーバラ・ルーシュ氏

**コロンビア大学名教授**

**バーバラ・ルーシュ**

「箏築のリードの生育地である鶴殿ヨシ原に高速道路が建設されるという話を聞き、とても心を痛めています。日本の文化でもあり、世界の文化でもある雅楽を守るために心より応援します」

**イタリア ローマより**

イタリアで東アジアの音楽文化を紹介した『東アジアに於ける音楽と伝統』を2010年に出版するなど、イタリアで日本の雅楽も含め東洋の音楽の研究をすすめているダニエレ・セステイリ氏よりメッセージが届きました。



ダニエレ・セステイリ氏

**元ローマ大学講師**

**ダニエレ・セステイリ**

「ローマ大学の学生が日本に留学すると、

日本の雅楽に感動し、学んできます。今年は南都楽所にお世話になっていて聞いています。箏築のリードの生育地に高速道路が建設されると聞き、耳を疑いました。なんとしても雅楽の材料が無くならない様にしてほしい。1000年以上伝えられている音楽は世界の宝です」

**中国 二胡奏者より**

中国の民族楽器である二胡の教室を東京で開き、また中国と日本の文化の交流に多大な貢献をされている楊智氏よりメッセージをいただきました。



楊 智氏

**二胡奏者 楊智**

「私は1500年以上前から伝えられている二胡を演奏し、東京で多くの日本人に教えています。二胡の材料はインドの紫檀が最高ですが、インドは紫檀の輸出を止めました。現在アフリカの紫檀を使用していますが、これも値段が高騰し良い楽器を手にするのがとても難しくなっています。楽器の材料が手に入らないのは楽器が無くなったも同然です。箏築が千年以上前、中国からどのような経路で日本に伝わったかは分かりませんが、日本に伝わった箏築が無くなるとしたらとても悲しいことです。ヨシを守り、雅楽を守り、共に文化を生かしながら中国と日本の友好を深

めていきたいと願っています」

SAVE THE 鶴殿ヨシ原く雅楽を未来につなぐ実行委員会代表の中川英男氏（大阪楽所代表理事）よりコメントが寄せられました。

**「国際ダブ**

ルリード協会様よりの熱い檄文、及び海外の雅楽関係者の方々からメッセージを寄せていただき、とても心強く思っています。今後は鶴殿のヨシを守る運動をさらに大きくし、絶対に鶴殿ヨシ原を守り、箏築の最良のリードを後世に残す決意をより一層強くしています。署名も7月末を目途に10万筆を目指して続けていきます。「雅楽だより」の読者の皆様も署名のさらなるご協力を今後ともお願いいたします」（今号も署名用紙を同封しております）



中川英男氏

**第2回検討会が開かれた**

「新名神高速道路鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会第2回」が6月23日（日）午後2時半より、高槻市市民会館で開かれた。主な議題は、鶴殿地域全体の既往調査結果の報告、箏築用のヨシと一般的なヨシの育成状況の違いを把握するための調査報告ほか。（詳細は次号に掲載します。第1回検討会の内容は「雅楽だより」33号に掲載）